



地域おこし協力タイムス

現在市で活動している地域おこし協力隊の隊員が交替でお届けします。第5回は「食の黄金文化・奥州輝かせ隊」の佐藤幸治さんです。

皆さんこんにちは、佐藤幸治です。2月に奥州市の地域おこし協力隊となつて

以来、まずは人とのつながりを広げようと思い、市内の各地域を巡り、さまざまなイベントなどに参加しています。地域を回っていて「協力隊って何をしているの?」とよく聞かれます。現在、市では都市圏から移住してきた5人の隊員が「観光」「カヌー」「食と農」それぞれの分野で地域の活性化につながる活動をしています。私と高橋史江さんが所属する輝かせ隊の任務は、奥州市の農業、食、自然環境、人などの魅力をさらに引き出して全国に発信し、市を輝かせることです。

江刺出身の私。15年間住み続けた愛知県からリターンしてみると、江刺市は奥州市となっていました。変わらない味や環境を支える人がいる一方で、新たな農畜産物加工商品の開発や販売に挑戦している人がいることを知り、このまちも前に進み続けているのだと感じています。着任からこれまで一番印象に残っているのが、江刺のやながわ羊です。先日毛刈りを見学し、話を伺う機会がありました。現在やながわ羊の肉は主に首都圏に出荷されていて、雑誌にも取り上げられるほど上質だといわれています。また草をよく食べることから「天然の芝刈り機」

と呼ばれ、耕作放棄地での飼育にも適しているそうです。羊毛も活用の余地があり、羊が奥州市の新たなエースになるのでは、とワクワクしました。

これからも、農林畜産業の現場や、加工・販売を担う飲食店などへ伺い、一緒に輝きを高めることができればと思いますので、よろしくお願ひします。

フルマラソンに挑戦した5月のきらめきマラソンでは、給水所に並んだりんごやようかんなど市の特産物で栄養を補給し、完走することができました。これから暑い季節となりますが、皆さんも奥州市の食材をたくさん食べて、元気に夏を乗り切りましょう!

●輝かせ隊は「まるっこ奥州」を拠点に活動をしています。農作業、飲食店、地域イベントなど「知ってほしい、参加してほしい」情報をお寄せください
〒023-0831 水沢姉体町字石名坂 51-4 ☎ 47-3031

●活動の様子はこちらから

Facebook



Instagram



6月上旬に、東北I L C推進協議会、岩手県南・宮城県北I L C推進団体、東北市長会などと連携し、政府・関係省庁などへ要望活動を行ってきました。日本学術会議の「マスタープラン2020」へI L C計画が盛り込まれるかどうかなど、これから年明けにかけて大きなヤマ場を迎えます。今後も、国における検討状況や国際情勢を注視するとともに、県など関係団体と連携し、I L C実現に向けて取り組んでまいります。



先月は、焼石連峰と種山高原の山開き、前沢牛まつり、水沢商人まつりと、野外のイベントがいずれも好天の下で行われました。今月も暑さが日ごとに増してきましたが、皆さんいかがお過ごしですか。

6月29日に、胆沢城跡歴史公園が開園しました。外郭南門周辺の築地などを復元整備したほか、「AR(拡張現実)技術」を活用し、スマートフォン上の画面上に当時の建築物や、阿弔流為、坂上田村麻呂が出現するなど、楽しみながら歴史を学ぶことができますので、ぜひ足を運んでください。

J R水沢駅と水沢江刺駅で、南部鉄器風鈴の飾り付けが行われました。今年は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の公式ライセンス商品である、五輪マークのカラー風鈴も取り付けられました。これを機に、もっと多くの人に南部鉄器を知ってもらおうとともに、市としても大会を盛り上げてまいりたいと思います。

大谷翔平選手が、メジャー日本人選手初のサイクル安打を達成しました。菊池雄星投手との対戦でも本塁打を放つなど大活躍です。今後のさらなる活躍を願っています。

奥州市長 小沢昌記

We support the **ILC**

希望のひかり 第68回

I L C (国際リニアコライダー) 計画の各種最新情報をお届けします

東北一丸で政府要望

6月12日に、東北I L C推進協議会や北海道東北地方知事会、北海道・東北6県議長会、東北市長会の4団体は、早期のI L C日本誘致に向け、より明確な意思表明をするよう政府に要望しました。



菅官房長官(写真上)と川村議連会長(写真下)に要望書を手渡ししました



菅官房長官(写真上)と川村議連会長(写真下)に要望書を手渡ししました

要望活動には、高橋宏明東北I L C推進協議会共同代表、達増拓也県知事、佐々木順一県議会議長をはじめとした各県代表、小沢昌記市長など候補地自治体の代表や、谷村邦久県I L C推進協議会長、鈴木厚人県立大学長らが参加。首相官邸、文部科学省、国土交通省、復興庁を訪問し、菅義偉官房長官などに要望したほか、都内のホテルで開催されたりニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟(超党派の国会議

連)の会合で、河村建夫会長に要望書を手渡ししました。河村会長は「東日本大震災からの復興、日本の科学技術の力を発揮させるものとして、国民理解を広げる方針で活動する。力を合わせて実現に向けて頑張っていくたい」、菅官房長官は「要望をしっかりと受け止めたい」と発言しました。

出前講座を活用しませんか

市では、I L Cの概要や意義などを市民の皆さんにより深く理解していただくため、職員を派遣する出前講座を実施しています。本年度も開催しますので、地域の行事などにご活用ください。ご希望に沿って職員を派遣しますので、お気軽にお問い合わせください。



I L Cカルタで遊ぶ子どもたち

あんなことこんなこと

I L C国際化推進員 トマス・アンナの



野鳥観察会も開かれる豊かな自然環境

I L Cにまつわる話題や、アンナさんの目線で見た本市の姿などをお届けします。今回のテーマは「世界の加速器研究所」です。

アメリカのシカゴ近郊にあるフェルミ国立加速器研究所は、世界で2番目に大きい素粒子加速器複合施設です。設立された1967年から、各国の研究所と協力しながらニュートリノ実験や天体物理学など、さまざまな研究・技術開発を行ってきました。その一方でフェルミ研究所は、公園・自然保護区のような所としても知られています。約2,750畝の敷地は一般住民に無料開放されていて、身分証明書を見せるだけで、自由に散歩や釣りなどができます。約300種類の野鳥、54種類のチョウ、58種類のトンボなどの生息地として管理されていて、在来種の保

護や外来種の防除、生態調査なども行われています。そのほかにもフェルミ研究所は、生涯学習センターのような場所でもあります。敷地内にある子ども科学館には、体験型の展示や講師向けの教材センターがあります。高校生を対象にした週末講演、大学生のインターンシップ、一般住民と研究者が交流できる懇親会など、子どもから大人まで多くの人が科学に触れられる機会を提供しています。I L Cの施設も、フェルミ研究所のように、岩手の自然を守りながら親しむことができる場、みんなの学びの場になれば最高だと思います。